



## 新年に寄せて



北海道介護支援専門員協会  
会長 大島 康雄



2024年を振り返ると、世相を象徴する漢字は「金」でした。パリオリンピック・パラリンピックや北海道日本ハムファイターズのクライマックスシリーズ進出など、明るい話題がたくさんある一方で、八代亜紀さんや鳥山明さんなど馴染み深い有名人の訃報も届き、自分自身、年齢を重ねる意味を考えながら過ごすことが多くなった年でもありました。

個人的には、多くの地域で活動させていただいた1年でした。遠方では福岡、山口、名古屋、大阪、東京、長野、道内では函館、帯広、新ひだか、浦河、遠軽、留萌、倶知安、ニセコ、黒松内、士別、旭川、幌延、稚内、網走、千歳、恵庭、北広島、札幌など、各地を訪れ、講演会のサポート等を通じて、多くの方々との交流の場をいただきました。皆さまが元気に利用者と笑顔で関われる環境をつくるのが、私たちの協会活動の意義となります。これからもお声がけいただければ、私たちはどこにでも駆けつけます。

昨年の抱負のひとつであった北海道ブロック研修大会 in 上川は、高橋理事の尽力もあり、大成功を収めることができました。会員数も増え、充実した研修会を実施できたことを誇りに思います。そして、会員の皆さまが、楽しく元気に利用者やそのご家族、地域の方々に関わる姿を目にするたび、私自身の大きな励みとなっています。

2025年は巳年であり、脱皮を象徴することから「飛躍の年」と言われています。こうしたことから、今年はさらなる成長と発展を目指したいと思います。特に大きな節目となるのが、「時代を担って、次代を拓く〜つなぎたい介護支援専門員の未来〜」をテーマに令和7年11月1日(土)・2日(日)に東京国際フォーラムで開催される「第19回日本介護支援専門員協会20周年記念全国大会」です。また、道内では、道南でのブロック研修大会を予定しており、秋野理事を中心に企画を進めています。いずれの大会も、多くの会員の皆さまにご参加いただければ幸いです。

日本協会を通じて老健事業に参加している感想として、介護支援専門員に対する他の機関や職能団体からの評価には賛否があるのが現状で、時には厳しい意見が出ることもあります。国においては次の制度改正に向け、すでに多くの検討がなされています。介護支援専門員の立場を守るには、皆さまのご協力が必要です。新規会員を募集する活動や、利用者・家族に対し質の高いケアマネジメントを日々続けることで、社会的評価も高まり、結果的に皆さまの利益につながるものと信じています。

介護支援専門員が一丸となることが求められる今、北海道介護支援専門員協会へのご協力を心よりお願い申し上げます。

## お知らせ

次号(7月発行予定)より「北海道介護支援専門員協会通信」が電子版になります

これまで郵送で年2回お届けしていた広報誌「北海道介護支援専門員協会通信」が、7月発行予定の次号(No.17)より電子版(PDFファイル)となります。

電子版広報誌は当協会ホームページの会員専用ページに掲載し、メールにて発行をご案内いたします。

### ● 電子版のメリット ●

- いつでもホームページから読むことができる
- URL や QR コードからリンク先へ簡単アクセス
- ページ数の制限なく多くの情報をお届けできる
- 印刷や発送の期間を省き最新情報をお届けできる

これからも広報誌をご覧いただくために

メールアドレスのご登録・更新に  
ご協力ください

メールアドレスをはじめとする会員登録内容の変更・更新方法については、後日あらためてご連絡申し上げます。

# 令和6年度 日本介護支援専門員協会



令和6年9月1日(日)、旭川市の大雪クリスタルホール大会議室において、「令和6年度 日本介護支援専門員協会北海道ブロック会議・ブロック研修大会 in 上川」を実施いたしました。本大会には、道内から介護支援専門員95名が参加し、専門知識の向上を目指し、「エンド・オブ・ライフ(人生の最終段階)におけるケアマネジメント」をテーマに共に学び、実践的な支援方法を深めることを目的として行いました。

## 道内13地域における活動内容を報告 —ブロック会議—



zoomでも全道各地から会員が参加

午前中は、協会会員37名の参加により「第1回 令和6年度日本介護支援専門員協会北海道ブロック会議」からスタート。当協会の木元副会長および日本介護支援専門員協会の大島常任理事による開会の挨拶の後、北海道における活動状況と今後の取り組み方針についての説明に続き、全道13ブロックの代表者から活動報告を行い、各地域が抱える課題や実践事例を参加者間で共有することができました。特に、ケアマネカフェや会員への活動周知に関する報告では、具体的な実施方法への質問が多く寄せられ、地域活動に対する理解を深める貴重な機会となりました。

## 講演と実践発表で看取り期の対人援助を考察 —ブロック研修大会—

午後からは「令和6年度日本介護支援専門員協会北海道ブロック研修大会」を、会場参加とオンライン参加を併用したハイブリッド形式で実施。95名の参加者のうち半数は、全道各地からオンラインで参加していただきました。



大島常任理事による日本協会の活動報告

はじめに、当協会会長も兼務する大島常任理事が日本協会の活動報告として、組織強化によるメリットや国への提言、関係団体との連携に関する取り組みを参加者へ向けて紹介したほか、今後の活動の方向性についても説明がなされ、会員増強を重要な目標に掲げ、会員の声を中央に届ける組織づくりへの決意を表明しました。

## 2024 ブロック活動レポート

## 全道各地で絶賛開催中！ ケアマネカフェを突撃レポート



裏カフェで更なる談義。地元グルメも堪能です



**根室ブロック** 「みんなで、話そ あつまって、話そ」をテーマに、9月28日(土)根室ブロック主催のケアマネカフェを中標津町で開催しました。

当日は、管内をはじめ、隣の釧路ブロックからも参加者が駆け付け、道協会武田副会長を含めた総勢15名が参加。シャドーワークに費やす苦労や関係者との対応策、ITアイテムを駆使した業務効率化の実践談まで、多岐に渡る内容で意見交換を行い、地域の垣根を超えて学びと交流を深めました。



歴史の風情が残る江差の街並み



ざっくばらんな意見交換。「新鮮」「有意義」との声も

# 北海道ブロック会議・研修大会 in 上川○○○○



高野教授の熱気あふれる講演

続いては、「多死社会におけるケアマネジメント～人生の最終段階における総合的な対人援助のあり方～」として、講師に東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科の教授である高野龍昭氏を招いた基調講演となりました。

高野氏は、「伴走型支援」を中心とした包括的支援体制と、ターミナルケアにおけるケアマネジャーの重要な役割についての考察の中で、ケアマネジャーが制度や分野を横断して要介護者に寄り添うことの重要性について話され、参加者にとっては責任の重さと「やりがい」を再認識する内容となりました。



高野教授を交えた実践発表後のセッション

研修大会の最後には、「ターミナルケア～あのとき、こんな支援ができたなら～」をテーマに、協会会員による実践発表として、名寄市の居宅介護支援事業所SUNの主任介護支援専門員江口英樹氏と、小樽市のケアプランセンターきりんの主任介護支援専門員大塚陸美氏が登壇し、実際に携わった在宅看取りケースにおけるチーム支援について、実践的な発表が行われました。参加者からは「日々の業務を振り返る良い機会となった」「ICTを活用した情報共有を自分の地域でも試してみたい」といった声が多く寄せられました。

次年度のブロック大会は、今秋道南で開催の予定です。

令和6年4月から介護支援専門員の業務に従事しており、現段階で看取りの利用者を支援したことがありません。今回、看取りに対する関わり方や注意すべき点など多くの学びを得ることができました。

ケアマネのシャドーワークは、それをしなくては業務にならないというほど多いと思う。然るべき機関につなげる事も大切だし、そこに報酬を付けるのも良いことだと思う。事例発表もとても参考になった。北海道で沢山のケアマネさんたちが看取りをはじめ、色々な業務に努めているのだと、自分だけではないと勇気をもらった。

今までは漠然に「高齢者が増えるんだ」と思っていたが、新規入院病床開設の消極的な姿勢＝在宅で終末を迎える方の必然的な増加。ケアマネの業務対応の必要性など、様々な事柄がリンクし、影響され、影響が及ぼされていることに改めて気づきました。

## 参加者の声

自分たちで行った看取りを振り返り、不足点、できたはずの事などを考える機会となりました。連携の大切さICTの活用法を知り、導入を検討したいと思いました。

当協会ホームページ「会員ページ」にて、ブロック会議の資料および議事録を公開しています。ぜひご確認ください。

## 道南ブロック

道南ブロックでは「もう一回つながろう」をテーマに、10月26日(土)

ケアマネカフェを江差町で開催。日本協会・北海道協会の活動紹介に続き、道協会札幌ブロックの長崎ブロック長を講師に「適切なケアマネジメント手法の意義」をテーマにした講演会を行いました。

続いて渡島・松山地区から20名が参加したカフェでは、施設系・居宅事業所・地域包括の3グループに分かれて意見交換が行われ、1時間に渡り、人材不足やシャドーワークといった日頃の悩みや、ケアマネ同士「つながる」ことの大切さについて共有できる機会となりました。

## 宗谷ブロック

11月のヤングケアラー月間にちなみ「ケアラー支援」について理解を深めようと、宗谷ブロックでは11月16日(土)に、ミニ講演会を交えたケアマネカフェを稚内市で開催しました。

まずは「ヤングケアラーの理解」として、道協会伊藤副会長が「モニタリングの機会を活かした気づきと世帯全体をマネジメントする視点の重要性」について講演。続くカフェでの意見交換では、「法制度がない中で、家族やその背景を含め支援の必要がある」「ケアマネの気づきが大切だと実感した」等、関わりや視点について活発な意見が出されました。



今回の講演はzoomで実施



管内から13名が参加。遠くは礼文町からも！



# \* 協会からのお知らせ \*

## 【予告】第2回代議員選挙を実施します

令和7年は、北海道介護支援専門員協会代議員選挙の実施年です。

選挙公示内容など詳細につきましては、2月中旬までに全会員へ郵送でお知らせするほか、当協会ホームページにも掲載しご案内いたします。

## 【予告】ホームページリニューアルのお知らせ

4月より当協会ホームページをリニューアルいたします。研修案内や求人情報など、よりリアルな情報を瞬時にお届けできるよう、SNSとの連携も視野に入れ準備を進めています。お楽しみに。



## 【連絡】「主任介護支援専門員研修」居宅介護支援管理者要件に係る

### 経過措置の令和8年度末終了に伴う主任研修の受講について

居宅介護支援管理者要件に係る経過措置の終了にともない主任介護支援専門員研修を修了していない居宅支援事業所の管理者または管理者として従事予定の介護支援専門員の方は、経過措置期間中（令和7・8年度）に主任研修の受講をおこなってください。

なお、主任介護支援専門員の確保が著しく困難である等、やむを得ない理由や、特別地域居宅介護支援加算又は中山間地域等における小規模事業所加算を取得できる場合は、猶予期間の延長が可能になることがあります。くわしくは保険者へお問い合わせください。

※研修実施機関(HIT)からの通知内容など、詳細はこちらから

<https://www.do-kaigoshien.jp/information.html>



## 【発行】一般社団法人北海道介護支援専門員協会



〒060-0003  
札幌市中央区北3条西7丁目1番地  
第1水産ビル4階  
TEL.011-596-0392  
e-mail info@do-kaigoshien.jp

当協会ホームページはこちらから

## 編集後記

会員の皆様今年もどうぞよろしくお願いたします。今回の会報を持ちまして、紙媒体での発行が最後となります。今後は違った形で皆様へ情報をお届けいたします。来年度のブロック大会は函館で開催予定です。皆様のご参加お待ちしております！  
(広報広聴委員：秋野)